

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.258

2014年11月

本学次期総長候補者に松尾清一副総長・医学系研究科教授が選出される



目次

●ニュース	
本学次期総長候補者に松尾清一副総長・医学系研究科教授が選出される	3
モンゴルサテライトキャンパス開校式・入学式及びモンゴル事務所開所式を 挙	4
行	
カンボジア・ベトナムにおいてサテライトキャンパス開校式・入学式を挙	5
行	
平成26年度名古屋大学公開講座を開講	6
天野 浩工学研究科教授が安倍総理大臣、下村文部科学大臣らを表敬訪問	7
天野 浩工学研究科教授が平成26年度文化勲章を受章	7
濱口総長がモンゴル国家勲章「北極星勲章」を受章	8
文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA：トップ型に 採	8
択される	
平成26年度大学院秋季修了式を挙	9
行	
平成26年度秋季入学式を挙	9
行	
●知の先端	
アルツハイマー病関連分子の脳内分布を3次元で測定することに成功	10
澤田 誠（環境医学研究所教授）	
●知の未来へ	
DNAの資源化	12
ジンチェンコ・アナトーリ（大学院環境学研究科准教授）	
●部局ニュース	
農業ふれあい教室を開催	13
第4回組込みシステム研究センターシンポジウムを開催	13
展示会「千年の医書」を開催	14
「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー養成プログラム 入	14
講式を開催	
雲レーダの運用を開始	15
第103回防災アカデミー開催	15
解剖弔慰祭を挙	16
行	
第128回8大学工学関連研究科長等会議を開催	16
第33回トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催	16
ICCAE 第5回オープンセミナーを開催	17
第56回博物館コンサートを開催	17
第16回次世代自動車公開シンポジウムを開催	17
●名大を表敬訪問された方々	18
●新たに締結した学術交流協定	18
●構成員を対象とした研修	18
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成26年9月16日～10月15日	20
●イベントカレンダー	23
●ちょっと名大史	
古川図書館の完成 ― 念願だった東山の中央図書館 ―	28

本学次期総長候補者に 松尾清一副総長・医学系研究科教授が選出される



1	
2	3

- 1 記者会見をする松尾副総長
- 2 会見後記者からの質問に答える松尾副総長
- 3 総長選考会議の結果を述べる柴田議長、佐野学内委員主査

濱口道成総長の任期が平成27年3月31日をもって満了することに伴い、名古屋大学総長選考会議は、10月29日(水)、次期総長候補者の選考を行い、候補者から提出された大学運営に関する文書、所信表明、名古屋大学総長選考の基準、学内意向結果及び面談を踏まえ、審議の結果、松尾清一副総長・医学系研究科教授を次期総長候補者に決定しました。

松尾副総長は、総長選考会議後に行われた記者会見において、「名古屋大

学学術憲章に掲げられた、世界をリードする知的成果の産出、国際的に活躍できるリーダーとなる『勇気ある知識人』の育成、世界、とりわけアジアでの社会貢献、の3つのミッションを継続し、さらに発展させられるよう、様々な領域、分野及び外部の方々と協力していきたい」、「最終的には名古屋大学の財産である教育・研究が、社会に広く貢献できるように役立てていきたい」、「研究大学を目指す本学では基礎的・基盤的研究が一番大事であり、

一層力を入れて大学全体として支援していきたい」、「若手の研究者をしっかり支援し、花開くようにしていきたい」、「アジアとの交流は本学の強み、この強みをさらに伸ばすよう、積極的に取り組んでいきたい」、「本学での取り組みを、さらに大規模に質を高めて展開できるよう、本学が中核となって国内外のネットワークを拡大したい」などの抱負を語りました。



モンゴルサテライトキャンパス開校式・入学式及び モンゴル事務所開所式を挙



スマートフォンを手に取り、青色LEDについて述べる総長

モンゴルサテライトキャンパス開校式、「アジア諸国の国家中枢人材養成プログラム」入学式及びモンゴル事務所開所式が、10月13日(月)、ウランバートル市内のホテルにおいて挙

行されました。来賓者には、林伸一郎在モンゴル日本国大使館臨時代理大使、ダワアーサンボー モンゴル教育科学省科学政策調整部長、スンジッド モンゴル法務省行政管理部長、ドルジ モンゴル科学アカデミー副総裁、ナムナン モンゴル科学技術大学副学長等、政府機関や大学関係者が多数出席し、モンゴル側からの本学に対する期待や関心の高さがうかがえました。

式典の開会にあたり、濱口総長からあいさつがあり、モンゴルとの交流をはじめて20年の節目でこのような場を設けられ大変感慨深いこと、モンゴルは本学にとって最も重要なパートナー国のひとつであることが述べられました。また、自身のスマートフォンを手に取り、今年ノーベル賞受賞の契機となった青色発光ダイオードを引き合いに、教育・研究の成果をモンゴルをはじめ世界に還元し、世の中の発展に貢献したいことなどが述べられました。



モンゴル事務所でのテープカットの様子



式典での記念撮影

続いて、渡辺理事から、昨年10月に設置したモンゴル事務所設立準備室が、今年10月から正式にモンゴル事務所として本格稼働を開始し、モンゴルと本学との橋渡しの役割を担っていくことなどが述べられました。

また、市橋副総長から、モンゴルサテライトキャンパスを活用した「アジア諸国の国家中枢人材養成プログラム」について、本邦及びサテライトの両キャンパスでの教育研究をベースにしたハイブリッド型博士課程教育を行う、わが国で初めての挑戦的なプログラムであること等が述べられました。

新入生を代表してモンゴル控訴裁判所判事であるツェンド・ツォクト氏からあいさつがあり、式典に参加した来賓の方々に、「一生懸命頑張り、母国及び世界に貢献したい」と将来に向かっての意気込みを語りました。

最後にモンゴルサテライトキャンパス及び事務所のスタッフとして、ナランゲレル顧問、ガンガバートルサテライト長をはじめ、事務補佐員や現地スタッフが紹介され、これからモンゴルでのミッションを担っていくスタッフに対し、会場から拍手が送られました。

式典終了後、同ホテルオフィス棟3階のモンゴルサテライトキャンパス・事務所においてテープカットを行い、モンゴルと本学との新たな門出を皆で祝福しました。

カンボジア・ベトナムにおいてサテライトキャンパス開校式・入学式を挙



カンボジアサテライトキャンパステープカットの様子

サテライトキャンパス開校式及び「アジア諸国の国家中
枢人材養成プログラム」入学式が、10月13日(月)にカンボ
ジア、10月15日(水)にベトナムのそれぞれにおいて挙
行されました。

本学では、サテライトキャンパスをアジア7カ国におい
て、今後3年間で順次整備する予定です。このキャンパス
で実施される本プログラムは、各国の政府等機関の幹部及
び将来のナショナル・リーダーとして活躍が期待されてい
る若手人材等を対象とし、現地のサテライトキャンパスと
本邦キャンパスの連携による、日本で初めてとなるハイブ
リッド型の博士課程プログラムです。

初年度の今年は、10月からカンボジア、ベトナム、モン
ゴルにおいてプログラムを開始し、大学院法学研究科、大
学院医学系研究科、大学院生命農学研究科、大学院国際開
発研究科がプログラムを提供します。

10月13日(月)には、カンボジアサテライトキャンパスの
開校式及び入学式が、実施拠点となるカンボジア王立プ
ンベン大学内のカンボジア日本人材開発センター (CJCC)
において挙行されました。



鮎京理事 (左) とヒエウ・ベトナム司法副大臣 (ハノイ法科大学長) (右)



握手を交わす鮎京理事 (左) とナロン大臣 (右)

本学からは、鮎京理事、磯田アジアサテライトキャン
パス学院長をはじめ関係部局の教職員が出席したほか、来賓
としてハン・チュアン・ナロン教育大臣、ホー・マーリン
農林水産省長官、チン・マーリン司法省副長官、隈丸在カ
ンボジア特命全権大使等が出席しました。

冒頭あいさつでは、鮎京理事から、サテライトキャン
パスの開校が、これまでアジア各国で行ってきた本学の活
動、貢献の次なるステップとなること、また、日本の大学
で他に例のない挑戦的な取り組みであることが述べられ、
来賓からは、アジアサテライトキャンパスで行おうとして
いる人材育成の意義と期待が述べられました。

開校式と併せて行われた入学式では、サテライトキャン
パスで学ぶ3名の学生が抱負を述べ、また、多数かつ多様
な関係者の参加を得て、活気あふれるオープニングとなり
ました。

カンボジアでは、3つの研究科がプログラムを実施しま
す。王立プノンベン大学は、カンボジアサテライト拠点の
管理室及び国際開発研究科の教育拠点の機能を持ち、法学
研究科は王立法経大学と、また、生命農学研究科は王立農
業大学と連携して教育を行います。

10月15日(水)には、ベトナム・ハノイ法科大学におい
て、ベトナムサテライトキャンパスの開校式及び入学式が挙
行されました。式典には、ファン・チ・ヒエウ司法副大臣兼ハノイ
法科大学長、柳在ベトナム日本大使館公使のほか、フエ医
科薬科大学や、JICA、JETRO など、日本・ベトナム両国
の関係機関からの出席がありました。

式典冒頭では、ヒエウ副大臣から、本学のこれまでのベ
トナムにおける貢献に対する感謝とアジアサテライトキャン
パスへの期待が述べられ、サテライトキャンパス開校を
記念して、高等教育関係者や政府関係者、在ベトナムの日
本企業等から、開校を祝う多くの花輪が届けられ、文字通
り式典に華が添えられました。

平成26年度名古屋大学公開講座を開講

平成26年度名古屋大学公開講座が、8月19日(火)から10月16日(木)までの間、経済学部第2講義室において開講されました。同講座は、本学の研究成果を広く一般に紹介することを目的に毎年開講されており、今年で46回目となります。今年度は、総合テーマを「おもしろいことは『境界』で起こる」とし、全15回の講義が行われました。

現在、グローバル化が注目されていますが、それは日本と他国との間に「壁」としての境界が意識されていることの現れでもあります。そもそも「境界」とはどのような場なのでしょう。たとえば、国と国との「境界」である国境は「壁」である一方、そこでは常に人やモノ、情報の行き来があり、時には紛争の生ずる場合もあります。また、細胞の「境界」である細胞膜は、決して静的なものではありません。細胞膜を通してのモノのやりとりも目覚ましい勢いで解明されつつあり、新薬を開発する創薬の分野でも大きな期待が寄せられています。また、近松門左衛門の晩年の遺語に「虚実皮膜(きょじつひにく)」ということばがあり、これは演劇の神髄は虚と実との「境界」にあるといった意味です。このように、さまざまな分野にある「境界」は、モノを活性化させ、独特の現象をひきおこす面白い場でもあります。

本講座では、文系、理系、医学などの様々な分野で最先端の研究をしている本学の教員が、自らの学問分野の成果を活かして「境界」の面白さを解説しました。各講義終了



講義の様子

後には、受講者から、講師を務めた教員に対して多数の質問が投げかけられるなど、関心の高さがうかがえました。

10月16日(木)に行われた閉講式では、宇澤社会連携推進室長のあいさつの後、平成19年度に制定された表彰制度に基づき、平成10年度以降、5年参加した6名の方に表彰状を、10年参加した3名の方と15年参加した2名の方に表彰状と記念品を授与しました。また、受講者138名のうち講義に10回以上出席した109名の方には修了証書を発行しました。なお、参加者の多様化を図るとともに、高校生に本学への関心を持ってもらう試みとして、平成22年度に開始した近隣の高等学校に対する公開講座への参加の案内を、今年度も受講料を無料として行ったところ、県内の2校から延べ11名の高校生の参加がありました。

また、公開講座開講に先立ち、7月6日(日)から9月7日(日)の毎週日曜日には、東海ラジオ放送において、ラジオ放送公開講座「名古屋大学リレーセミナー」全10回の放送を行いました。



開会式でのあいさつの様子



表彰式の様子

天野 浩工学研究科教授が安倍総理大臣、下村文部科学大臣ら を表敬訪問

2014年ノーベル物理学賞の受賞が決定した天野 浩工学研究科教授が、10月22日(水)、総理大臣官邸において安倍晋三内閣総理大臣を表敬訪問しました。会見には、天野教授、安倍総理のほか、濱口総長、山本ともひろ文部科学大臣政務官が出席しました。会見の中で安倍総理からは、今回のノーベル物理学賞受賞を称えお祝いのことが



会見の様子（左から、総長、天野教授、安倍総理、山本政務官）

述べられました。また、安倍総理から「昔から理科が好きであったのか」という質問がされると、天野教授は、「高校までは苦手であったが、名古屋大学で勉強したことがきっかけで理科が好きになった」と述べました。

総理との会談後、天野教授は官邸において行われた政府の総合科学技術イノベーション会議に出席しました。会議の中で、若手研究者のおかれている現状、今回受賞につながった青色LEDの発明は基礎研究の成果であったことなどを説明し、出席者に研究環境の充実や若手研究者への支援を求めました。

また、同日午前には、文部科学省において下村博文文部科学大臣を表敬訪問しました。天野教授は、本学での当時の研究を振り返り、自由に研究に取り組めたことが今回の受賞につながったと述べました。その後、現在取り組んでいる、電力をより省エネ化する技術の研究について説明がされると、下村大臣から、さらなる活躍に向けての激励のことが送られました。

この日の訪問には本学から濱口総長、國枝理事、渡辺理事が同席し、終始和やかな雰囲気の中で行われました。

天野 浩工学研究科教授が平成26年度文化勲章を受章

天野 浩工学研究科教授は、11月3日(月)、皇居宮殿で執り行われた文化勲章親授式において文化勲章を受章しました。翌11月4日(火)には、東京都内のホテルにおいて文化功労者顕彰式が執り行われ、文化功労者として顕彰されました。

文化勲章は、科学技術や文化の発展・向上に顕著な功績



記者会見で記者からの質問に答える天野教授

があるものに授与される勲章であり、文化功労者は、文化勲章に次ぐ榮譽で、日本において文化の向上発達に関し多大な功績をした者に贈られます。今回の受章は、平成23年に同章を受章された赤崎 勇本学特別教授とともに青色発光ダイオード(LED)の基礎技術開発を世界に先駆けて成功させ、その実用化に貢献したことによるものです。

受章が発表された10月24日(金)には、広報プラザにおいて記者会見が開かれ、天野教授からは、今回の受章の喜びとともに、国を引っ張る一人にならなければいけないと、受章者としての決意が述べられました。

また、本学関係者として元本学経済学部教授である小池和男博士が文化功労者として顕彰されました。小池元教授は労働経済学や人的資源管理論の第一人者として幅広い分野での活躍が高く評価されての受章となりました。

濱口総長がモンゴル国家勲章「北極星勲章」を受章

濱口総長は、10月13日(月)、モンゴル国家勲章「北極星勲章」を受章しました。「北極星勲章」は、モンゴル政府から外国人に授与される勲章の中で最高位に位置づけられており、過去には、海部俊樹氏、森喜朗氏、羽田孜氏といった元首相などが受章しています。当日は、モンゴル教育科学省において授与式が執り行われ、モンゴル教育科



握手を交わす総長（左）とガントゥムル大臣（右）

学省のL.ガントゥムル大臣からモンゴル国家勲章「北極星勲章」が授与されました。

今回の受章は、20年になる本学とモンゴルの交流の中で法学部・法学研究科が先陣を切り日本法教育研究センターをモンゴル国立大学に設置して以降、モンゴル科学技術大学、モンゴル国立教育大学、モンゴル医療科学大学など、モンゴルの主だった大学や研究組織と連携して学生交流や共同研究などの活動を推進してきたことにより、モンゴルにおける教育・科学分野の発展へ本学の貢献が評価されたことによるものです。

授与式の前日には、名古屋大学全学同窓会モンゴル支部から総長にモンゴル民族衣装である「デール」が贈られ、総長は「デール」をまもって授与式へ出席しました。授与式では、モンゴルと本学の、将来に向かっての関わりなどについて熱心に意見交換が行われ、関係者一同と感動を分かち合いました。

授与式後には、ウランバートル市内のホテルにおいて、ガントゥムル大臣のほか、モンゴル側の主要大学関係者と本学関係者の総勢12名が出席し、和やかな雰囲気の中、祝賀昼食会が執り行われました。

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA：トップ型に採択される

本学は、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」の公募に対し、タイプA（トップ型）に「21世紀、Sustainableな世界を構築するアジアのハブ大学」を申請し、このたび採択されました。

「スーパーグローバル大学創成支援」は、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や、先導的試行に挑戦し我が国の大学の国際化を牽引する大学など、徹底した国際化と大学改革を断行する大学を重点支援することにより、我が国の高等教育の国際競争力を強化することを目的とした文部科学省の事業です。

本学では、タイプAの採択を受け、「世界のトップを目指す先端研究強化」、「魅力あるグローバルな Nagoya University」、「成長するアジアのハブ大学」の実現に取り組みます。

・タイプA（トップ型）

世界ランキングトップ100を目指す力のある、世界レベルの教育研究を行うトップ大学を支援

・B（グローバル化牽引型）

これまでの取組実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル化を牽引する大学を支援

平成26年度大学院秋季修了式を挙行

平成26年度名古屋大学大学院秋季修了式が、9月29日(月)、豊田講堂ホールにおいて、濱口総長、役員及び研究科長の列席のもと挙行されました。

今年度の秋季大学院修了生は、修士課程及び博士課程前期課程50名、医学博士課程及び博士課程後期課程53名、専門職学位課程1名の計104名となりました。



式典の様子

式典では、総長から各研究科の修了生代表に学位記が授与され、次いで、修了生に対し本学における課程を修了したことへのお祝いのことばと、本学において学んだ知識や技術をさらに研鑽し、世界の発展のために貢献することを希望する旨のはなむけのことばが贈られました。これを受け、修了生総代として大学院医学系研究科の常 杰さんから、世界的に安全な飲み水や食糧、医療・公衆衛生サービスが大きな課題となる中、本学で学んだ知識、経験、技術を活かし、人々が健康で幸せな暮らしができるよう、将来は国際的な場で貢献していきたいとの力強い「総代の辞」がありました。

閉式後には、修了生から、家族や友人、お世話になった教員へ感謝の気持ちを伝えようと花の贈呈が行われました。

また本学の民族舞踊団音舞による「切籠太鼓」、「ソーラン節」が披露され、修了生の門出をにぎやかに祝いました。

平成26年度秋季入学式を挙行

平成26年度名古屋大学秋季入学式が、10月3日(金)、豊田講堂ホールにおいて挙行されました。今年度の秋季入学生は、学部生45名、大学院学生131名(修士課程及び博士課程前期課程61名、医学博士課程及び博士課程後期課程70名)の総勢176名となりました。

秋季入学生の多くは、留学生特別コース、大学院医学系



式典の様子

研究科修士課程医科学専攻医療行政コース(ヤング・リーダーズ・プログラム)、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」により設置された国際プログラム群等、海外からの留学生です。

なかでもグローバル30は、我が国の高等教育における国際競争力の強化を目的に、留学生等にとって魅力的な教育を提供し、学生同士が切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる人材養成を図るため、質の高い教育と、海外の学生が日本に留学しやすい環境を提供する、国際化拠点の形成に向けたプログラムです。グローバル30に基づき設置された国際プログラム群は、海外から本学を目指す学生等に対し、学部レベルにおいても秋季入学を可能にしました。また、全ての授業が英語で行われるため、英語のみでの卒業、学位取得が可能です。

式典では、濱口総長から英語で祝辞が述べられ、続いて、役員等紹介の後、大学院情報科学研究科の松波紫草さんが入学生総代として、入学にあたって学生としての本分を全うすることを宣誓しました。

閉式後は、豊田講堂内で、晴れやかな表情で記念撮影を行う入学生の姿が見られました。

アルツハイマー病関連分子の脳内分布を3次元で測定することに成功 ～ LMD-MS 法：新しい質量分析イメージング技術の確立～

澤田 誠 環境医学研究所教授

皆さんは、小中学校の理科の時間に顕微鏡をのぞいて、なんてきれいなんだろうと思った経験はありませんか？植物の葉っぱやプランクトン、皮膚の細胞など、場合によっては染色液につけて、それも同じ材料でも染色液を変えると見え方が違ってくる。細胞はこんなふうにできているんだ、とかゾウリムシって本当に草履みたいな形をしているとか、そのときの会話まで聞こえてくるような気がします。さて、この興奮のあとに、こんな構造はいったい何でできているんだろう？と思った方も多かったのではないのでしょうか。でも、普通の顕微鏡では形は見る事ができても、その構造物が何からできているかの情報は得られません。

ところが、1997年に Caprioli らは、ラットの臓器から切り出した凍結切片を直接質量分析計にかけることによって組織の微小領域に含まれるタンパク質を検出できることを示しました。この分析を組織切片の分析したい領域で端から順番に行って測定結果を色分けして元の位置に表示すると、測定したタンパク質の濃度分布図が完成します。これが質量分析イメージングといわれる手法です。

質量分析は混合物中の分子をイオン化して質量により分離し検出する手法で、測定結果は横軸に分子量（正式には質量電荷数 m/z ）縦軸に検出した強度をしめす MS スペクトルで表示されます。それぞれのピークは分子量の異なる別々の分子の存在量に相当するので、ピークごとに質量分析イメージを作成すれば、多物質の分布を同時に検出する事ができます。

質量分析イメージングにおける解像度（空間分解能）は質量分析装置のレーザー照射径に依存しますが、一般的な質量分析装置では $150-200\ \mu\text{m}$ で、普通のサイズの細胞数個分の大きさに相当するため、画像はとても粗いものに

なってしまいます。そこで、高性能のレーザーを搭載し空間分解能 $5\ \mu\text{m}$ を実現できる専用機が開発されました。この装置は顕微鏡に匹敵する分解能が得られるため、「質量顕微鏡」と呼ばれています。しかし、光学画像の取得と質量分析という2つの作業を行うため、大気圧イオン化という手

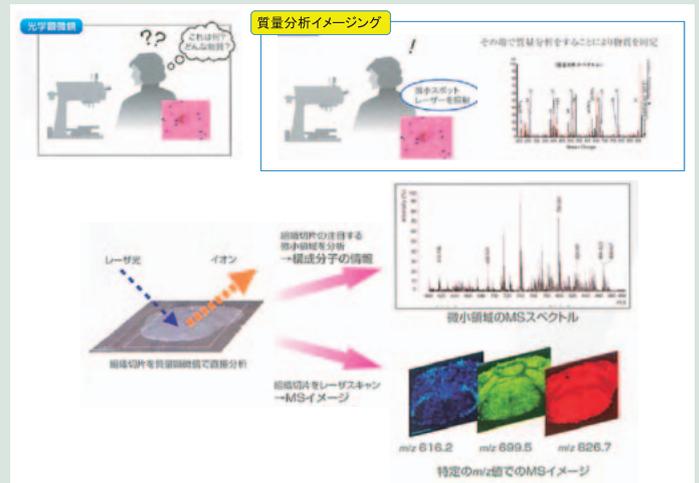


図1 質量分析イメージングの原理

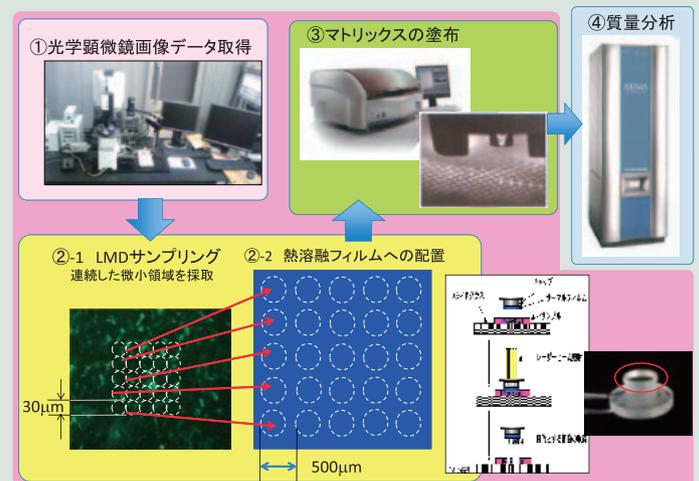


図2 MS イメージングアクセレーターの概略

- ① 光学顕微鏡を用いて、測定したい部位を選定します。
- ②-1 LMD により測定する小片を切り取りしてサンプリングをします。
- ②-2 LMD でサンプリングした小片を熱溶融フィルムに配置します。
質量分析で計測したデータを再構成するので、LMD によるサンプリング位置と熱溶融フィルムに配置する位置が同じ並びである必要はありません。質量分析装置の仕様にあわせて任意の位置に配置可能です。
- ③ 通常のマトリックス（イオン化が難しいタンパク質に混ぜることで結晶化する化合物。質量分析装置での測定時にイオン化しやすくなる）を塗布します。
- ④ 質量分析を行い、その測定結果に光学画像データと重ね合わせます。

大学院環境学研究科准教授
ジンチエンコ・アナトリー

DNAの資源化

Watson & Crick 両名がDNA構造を発見してから60年以上が経過しました。遡って20世紀までのDNAに関するほとんどの研究は、生化学や医学分野に限られていました。しかし、21世紀からはDNAを機能性高分子材料として取り扱う新しい研究が始まりつつあります。生きとし生ける全ての植物や動物には、DNAが存在しています。魚のサケの白子（精巣）にはDNAが豊富に含まれており、そのDNAを抽出できる技術も既に開発されています。一方、サケの白子は需要が少ないため、ほとんどが水産業の廃棄物扱いになってしまい、日本では毎年数千トン余りがもったいなくもフィッシュミールの原料になっています。しかし、ここで魚の白子にあるDNAを資源化してしまえば、ゴミ同然の産業廃棄物を機能性材料に変換できるだけでなく、魚がなくなる限り、再生可能なDNAの資源として大いに活用できるのです。

当研究室では、図に示されるようなコンセプトに基づいてDNAを資源化し、さらにその資源を材料化して、マテリアルや環境分野へ貢献できる技術を目指しております。たとえば、多くの有害物質は生体内のDNAに直接影響を与えてしまい、病気の一因となってしまうことがあります。というのは、有害物質がDNAと強く結合して機能障害を引き起こすからと、一般的に考えられて

いるからです。また生体内のDNAは、高い有害性を持つ重金属、ダイオキシン、環境ホルモン、発がん性化学物質等を取り込んでしまうという特徴があります。そこで、白子由来のDNAから有害物質吸着材料を作製し、その有害物質を選択的に集積・除去するという手法が可能になります。

DNA資源の応用は決して環境浄化に限らないです。DNAのそのもう一つの特徴は、貴金属やレアメタルに対して高い親和性を持っていることです。つまり、自然界に豊富に存在するナトリウムやカリウムイオンと異なり、貴金属やレアメタルのイオンと、安定な錯体が形成されるということです。この性質を利用すれば、DNAゲルというマテリアルを作製し、図に示されるように水溶液から効率よく貴金属や希土類などのレアメタル資源を回収することが可能になるのです。さらにDNA・貴金属イオンの錯体を用いて「DNA金属化」という過程では、DNA高分子を鋳型とした数nm直径の無機ナノワイヤーというナノ材料を創製できます。昨今、触媒やエレクトロニクス分野で大いに期待されているのがこのナノ材料なのです。

以上に紹介した資源としてのDNAは、21世紀の現在でも未発見・未開拓な用途が数多く在り、この研究をより発展させていきたいと思っております。

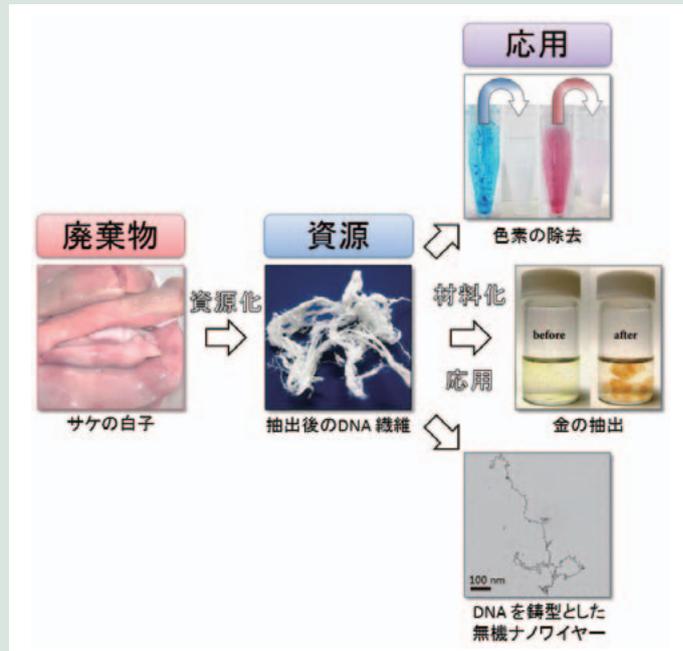


図 DNA資源化の概念図。(左)サケの白子、(中)サケ白子から抽出した高分子DNA(マルハニチロ株式会社)、(右)DNA材料の応用:(1)DNAを用いた水溶液から色素の除去、(2)DNAゲルにより水溶液から金イオンの抽出、(3)DNAを鋳型とした無機(CdS)ナノワイヤー。

農業ふれあい教室を開催

●大学院生命農学研究科

大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールドは、5月31日(土)と10月4日(土)の両日、農業ふれあい教室「親子農業体験-サツマイモを育てる」を開催しました。東郷フィールドでは、地域貢献特別支援事業「都市近郊の農業教育公園」の一環として、平成14年度から毎年、近隣地域の児童・生徒が農業や自然を体



サツマイモ掘りの様子

験・学習する機会として、農業ふれあい教室を開催しています。今回は、近隣地域の16家族、計50名が参加しました。

5月31日(土)には、サツマイモの特徴、育て方などについて説明を受けた後、畝のマルチはり、マルチの穴あけなど植付け準備を体験しました。その後、特製の竹串を使った植付け方法の指導を受け、約1,000本の苗を植付けました。

10月4日(土)には、植付け後4カ月間の育成を記録した写真を見ながら、サツマイモの育ち方について説明を受け、土の中で大きく育ったサツマイモを観察して、サツマイモのでき方について学習しました。その後、親子で協力しながらスコップや移植ごてを使い、イモ掘りを楽しみました。最後に、収穫したサツマイモを試食し、秋の味覚を楽しみました。

ほとんどの参加者にとって初めての体験でしたが、両日も天候にも恵まれ、親子で協力しながらサツマイモの植付け、収穫を楽しみました。保護者からは、親子で学習しながら楽しめる同様の企画を次年度もぜひ開催してほしいとの要望が寄せられ、好評のうちに「親子農業体験」は終了しました。

第4回組込みシステム研究センターシンポジウムを開催

●大学院情報科学研究科

大学院情報科学研究科附属組込みシステム研究センターは、10月8日(水)、ES総合館ホールにおいて、第4回組込みシステム研究センター(NCES)シンポジウムを開催しました。

松尾副総長及び松岡孝経済産業省中部経済産業局地域経済部次長のあいさつの後、日産自動車株式会社第一EV

技術開発本部EVパワートレイン開発部エキスパートリーダーの安達和孝氏による招待講演が行われました。続いて、高田NCESセンター長から、センターのこれまでの歩みと今後の展開についての報告があり、NCESの産学連携共同研究の成果発表、共同研究に取り組んだ企業からの発表と続き、最後に交流会が開催されました。

安達氏の講演では、スカイライン・ハイブリッドに搭載された、高田センター長が推進してきたオープンソースリアルタイムOS「TOPPERS」を題材に、高性能と高効率を両立させた興味深い開発が紹介されました。講演後は、NCESの共同研究成果発表に加え、今回初めての試みとして産学連携共同研究に参加した企業から、その意義について発表が行われました。参加者からは、産学の両面から具体的な成果と意義が聞けて良かった、との好評価が寄せられました。

今回は約150名の参加があり、各種の発表と30枚近いポスター発表に対して、90%の方から高い評価を得られました。交流会にも80名近くの方が参加し、熱心に情報交換を行うなど、好評のうちに幕を閉じました。NCESでは、今後も組込みシステム分野の産学連携共同研究を推進し、世界で3本の指に入る研究開発拠点を目指します。



シンポジウムの様子

展示会「千年の医書」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、6月11日(水)から9月30日(火)までの間、展示会「千年の医書－平安時代から江戸時代までの古医書の世界－」を開催しました。これは同館内にある医学部史料室の所蔵品の中から、古医書の歴史を語る上で極めて重要な史料を展示する企画です。

中国後漢の医聖と尊称される張仲景の『傷寒論』と『金



展示会の様子

匱要略』、元の孫允賢の『医方大成論』は、日本の医学に大きな影響を与えました。現存する日本最古の医書『医心方』は、平安時代の医師、丹波康頼がまとめたもので、平安時代末期以降の『病草紙』は、奇病や身体の異常に関する説話風な詞書に、絵が添えられた絵巻物です。

さらに、陽明学者の中江藤樹が門人のために書いた医学入門書『捷徑医筌』、後世の漢方医学に大きな影響を与えた吉益東洞のベストセラー『類聚方』、日本最初の本格的な西洋医学の翻訳書『解体新書』と、前年に世間の反響を見るために刊行された『解体約図』、日本最初の西洋内科翻訳書『西説内科撰要』、華岡青洲の麻酔薬の研究書『春林軒禁方録拔萃』、日本語で書かれた最初の病理学書である緒方洪庵の『病學通論』など、約30点の展示品は、漢方医学の発展と、その後の蘭方医学との対立と融和、そして蘭方医学の普及という医学の歴史が容易に分かる構成で展示しました。

一部覆刻版も含めて、普段まとめて見ることのない古医書との出会いは、多くの来館者の関心を集め、自分の蔵書との比較を楽しむ古医書収集家もみえました。

「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー養成プログラム入講式を開催

●博士課程教育リーディングプログラム「『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー養成プログラム」

博士課程教育リーディングプログラム「『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー育成プログラム」は、10月1日(水)、野依記念学术交流館において、第1期生の入講式を開催しました。同プログラムは、大学院国際開発研究科、大学院教育発達科学研究科、大学院生命農学研究科及び大学院医学系研究科の大学院生を対象とし



入講式での記念撮影

た5年一貫の学位プログラムです。「食・健康・環境・社会システム・教育」をキーワードとして、ウェルビーイングをアジアで実現するために、専門性と俯瞰力、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーの育成を目的としています。

第1部では、プログラム責任者である高橋医学系研究科長のあいさつの後、プログラムコーディネーターである東村博子生命農学研究科教授がプログラムの内容説明を行いました。続いて、第1期生の20名にプログラム証書が授与され、履修生代表2名が抱負や決意を述べた後、濱口総長から履修生に対する激励のことばが述べられました。

第2部では、スパ・ペンピッド マヒドン大学アセアン保健開発研究所長による基調講演「女性リーダーを目指すあなたへ」が行われ、リーダーシップとは生まれ持ったものではなく、日々の努力の積み重ねで身につけていくものであるという強いメッセージが送られました。

今回の入講式は、プログラム関係者が一堂に会し、より一層のプログラムの推進を図る上で良い機会となりました。

雲レーダの運用を開始

●地球水循環研究センター

地球水循環研究センターは、今年9月より、積雲や巻雲内部の気流構造や雲粒子分布を連続して観測することのできる「雲内部構造観測用 Ka バンドレーダ（雲レーダ）」を環境共用館屋上に設置し運用を開始しました。この雲レーダは、平成24年度補正予算によって今年3月に導入されたもので、試験観測を経て9月より連続観測を行っています。



環境共用館屋上に設置された雲レーダ

ます。この雲レーダは、平成19年に導入された水循環観測マルチパラメータレーダシステム（Xバンドレーダ）に比べて短い波長の電波を用いることで、雨や雪といった降水粒子よりも小さな雲粒や氷晶粒子を観測することができます。雲レーダとXバンドレーダによる同時観測を行うことで、積乱雲が発達する前の雲の構造の時空間変化や、雲内に降水粒子が形成される過程を観測できる見込みです。また、偏波機能を用いて巻雲内部の氷晶粒子の形状などの推定を行うことで、放射過程を通じて巻雲が地球環境に与える影響を推定することができると考えられます。

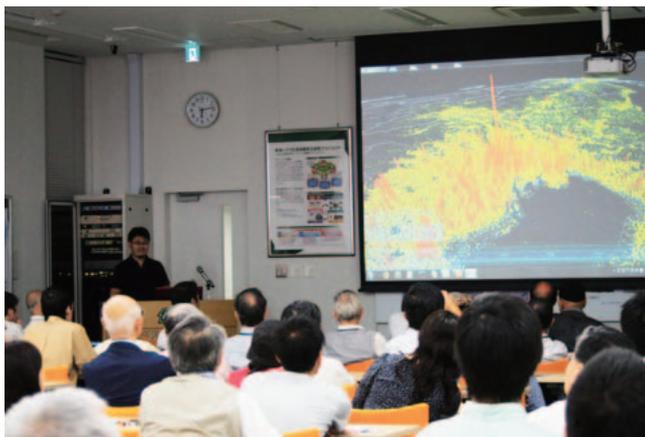
今後は、名古屋周辺での雲の観測に加えて、冬季の北海道や北陸地方における雪雲内の氷晶粒子を対象とした観測や、九州や沖縄における梅雨前線帯の降水システム内部の雲粒子の分布、台風外縁域の雲物理特性などの観測を実施し、雲・降水過程の解明を行っていきます。

第103回防災アカデミー開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、9月16日（火）、減災館1階減災ホールにおいて、第103回防災アカデミーを開催しました。今回は、NHKの阿部博史氏による講演「震災ビッグデーターいのちの記録を未来へー」が行われ、82名の参加がありました。

講演では、はじめに阿部氏から「震災ビッグデータ」に



講演する阿部氏

ついて簡単な説明があり、首都圏、津波浸水地域、原発被災地の3地域で東日本大震災時及びそれ以降に何が起きたのか、ビッグデータを利用した様々な分析結果が紹介されました。例えば首都圏では、平成23年3月11日の夜、電車が止まったことにより都心では多数の帰宅困難者が発生しましたが、同時に合計800kmにも達するほどの大規模な交通渋滞も発生していたことがビッグデータから判明しました。また、津波被災地では地震発生直後、浸水地域に戻ってしまった人も地域によっては多かったことや、企業の取引データを可視化することで、小規模な商店でさえも被災地内外と様々なつながりを有していることがわかり、大企業のみならず中小企業に対する支援も地域復興の大きな支援になると解釈できることなどが紹介されました。

参加者からは講演内容を踏まえ、災害時の情報伝達に関する質問など、活発な質疑応答が行われました。

解剖弔慰祭を挙行

●医学部



弔慰祭の様子

医学部は、10月9日(木)、医学の教育研究のために御献体された故人を慰霊するため、解剖弔慰祭を執り行いました。今年度も御遺族をはじめ、教職員、学生ら約300名が参列し、故人の御冥福をお祈りしました。

式典では、高橋医学部長から、「医学への御献体に対し心からの敬意と感謝の意を捧げるとともに、医学医療の進歩・発展及び医師・医学研究者の育成のために一層努力する覚悟であります」と慰霊のことばが述べられました。また、学生を代表して医学部医学科2年の加藤暉康さんが「多くの方々の御協力のもと医学を学べることに感謝し、御献体してくださった皆様の御遺志を無駄にせぬよう今後とも勉学に励み、将来の医療の発展のために努めていきます」と、御霊と御遺族に対して誓いました。式典に引き続き、解剖供養塔に御遺族、教職員、学生がお参りしました。

なお、今回供養された献体数は、系統解剖55体、病理解剖21体で、医学部創設以来の献体総数は17,522体となりました。

第128回8大学工学関連研究科長等会議を開催

●大学院工学研究科



会議の様子

大学院工学研究科は、9月19日(金)、ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋において、第128回8大学工学関連研究科長等会議を開催しました。今回は同研究科が当番校として開催し、北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、京都大学、大阪大学、九州大学、本学から工学系の研究科長、研究院長、学府長及び事務部長等が、また、文部科学省から牛尾則文高等教育局専門教育課長及び横井裕紀専門教育課科学・技術教育係員らが、産業界から吉田佳一株式会社島津製作所常務執行役員・基盤技術研究所長が出席しました。

会議では、「8大学工学系連合会規約の見直し」及び「8大学工学系連合会からのメッセージ発信」等について、活発な意見交換が行われました。

引き続き、講演会が行われ、吉田所長から、「企業における博士人材の活用」と題して、また、牛尾専門教育課長から、「理工系を取り巻く状況・課題」と題して講演がありました。

第33回トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催

●附属図書館



講演する溝口名誉教授

附属図書館は、10月7日(火)、中央図書館2階ディスカバリスクエアにおいて、第33回友の会トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催しました。

今回は、溝口常俊本学名誉教授による、「古地図で楽しむ今昔」と題した講演が行われ、学内外から50名の参加がありました。

講演では、まず、江戸時代から現在に至るまでの地図を比較しながら名古屋の街の移り変わりについて概説がされました。その中から、名古屋城、熱田神宮の周辺にあった軍事工場が戦時期の地図上では空白となっていること、ナゴヤ球場界限には、かつて稲作地帯であったことを示す地名が残っていることなどについて説明がありました。また、歴史資料から災害史を検討する事例について解説がありました。

参加者からは、「自分の住む地域の歴史を知ることは大切なことだと感じた」、「過去から現在への連続性が大変分かりやすかった」などの感想が寄せられました。

ICCAE 第5回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター



講演するシェリー客員准教授

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、9月29日（月）、農学部第2講義室において、2014年度第5回ICCAE オープンセミナーを開催しました。今回は、同センター客員准教授であるシェリー・イシュラット・ジャハン（Bangladesh Agricultural University）を講師に招き、「Bangladeshにおける稲作の現状と課題」について講演が行われました。米はBangladeshの主要穀物であり、増え続ける人口を支えるためにその生産を増やす必要があります。イネは一年を通して栽培できますが、生産性は低く、生育に影響をあたえる様々な非生物的要因が存在します。一方で、気温や降水量の変動という新たな要因も出てきており、食料安全保障には、持続的な方法で米の生産を増やす方策をとる必要があります。セミナーでは、Bangladeshの稲作の厳しい現状と、その解決に向けたシェリー客員准教授らの育種戦略について紹介があり、今後の改善に向けた活発な議論が展開されました。

第56回博物館コンサートを開催

●博物館



コンサートの様子

博物館は、9月17日（水）、第56回博物館コンサート「夜を想う～暁までの星たちの旅」を開催しました。2001年より続いているNUMCo（ナムコ：名古屋大学博物館コンサート）ですが、今回は、演奏者に辺見亜矢氏（フルート）と荒木まどか氏（ハープ）を迎えての開催となりました。当日は、235名の聴衆が訪れ、立ち見も出るほどの盛況でした。「夜を想う～暁までの星たちの旅」という題の通りに、夕暮れ時の「小舟にて（ドビュッシー）」から「夜想曲、月の光」等を経て、夜明けの「アーリーモーニング（ダマーズ）」まで、全7曲が演奏されました。

観客も音楽で綴った一夜の旅を楽しみ、割れんばかりの拍手の内に1時間のコンサートは終了しました。参加者からは「本当に素晴らしい演奏で感激した。次回のコンサートは何？」などの感想が寄せられ、演奏者からも「あんなに大勢の方に真剣に聴いていただき、演奏のしがいがあった」との感想が述べられました。

第16回次世代自動車公開シンポジウムを開催

●グリーンモビリティ連携研究センター



森田氏の講演の様子

グリーンモビリティ連携研究センターは、9月24日（水）、IB電子情報館東館2階大講義室において、第16回次世代自動車公開シンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムは、「モビリティを支える金属材料」をテーマに、同日より東山キャンパスで開催された日本金属学会及び日本鉄鋼協会2014年秋季講演大会と併催で開催し、約120名の参加がありました。

今回の講演は、高橋 学（新日鐵住金株式会社技術開発部フェロー）、森田敏之（大同特殊鋼株式会社電磁材料研究所磁石材料第一研究室長）、松村寿男（瀧上工業株式会社企画管理室技術開発グループ技術開発チームリーダー）、大野哲生（デンソー生産技術開発部第1生技開発室長）の4名によって行われました。講演者はものづくりの現場に立つ企業の研究開発者であり、聴講者からは活発に質問が寄せられました。

名大を表敬訪問された方々 [平成26年7月16日～10月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
7月22日	南アフリカ	駐日南アフリカ大使館からユディ・マプーザ科学技術担当公使他1名	南アフリカ共和国との学術交流に係る意見交換
8月7日	英国	在大阪英国総領事館からパトリック・バニスター副総領事	RENKEI 航空工学ジョイント・ワークショップ出席、表敬訪問及び PhD 登龍門との意見交換
9月2日	米国	在名古屋米国領事館からステイブン・コバチーチ首席領事他1名	表敬あいさつ
9月3日	台湾	国立台湾大学から陳泰然元副学長他2名	表敬あいさつ
9月9日	オーストラリア	モナシュカレッジからジョー・ミズン最高経営責任者他2名	表敬あいさつ及び経済学研究科との意見交換
9月16日	中国	吉林大学哲学社会学院から田毅鵬 副院長	学術交流に係る意見交換
9月16日	パキスタン	駐日パキスタン大使館からファルク・アミル大使他1名	表敬あいさつ
10月3日	ベトナム	タイバック大学からグエン・バオ学長他2名	表敬あいさつ
10月6日	オマーン	スルタンカブス大学からナーサル・アル・アズワニ サイバー・セキュリティ部門長他1名	IT マネジメントに係るヒアリング
10月7日	ドイツ	ライプニッツ大学ハノーファー校からエリッヒ・バルケ学長他4名	表敬あいさつ及び工学研究科との意見交換
10月8日	オーストラリア	駐日オーストラリア大使館からポール・ハリス参事官他1名	表敬あいさつ及び国際化に係る意見交換
10月9日	モンゴル	モンゴル国立医療科学大学からバトバートル・グンチン学長他4名	表敬あいさつ

新たに締結した学術交流協定 [平成26年7月16日～10月15日]

大学間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名
9月19日	英国	エジンバラ大学
9月22日	英国	ケンブリッジ大学セント・ジョンズ・カレッジ

構成員を対象とした研修 [平成26年7月16日～10月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
7月22日(火)	第1回院内 TeamSTEPPS 研修	チーム医療を実践するためのツールである「TeamSTEPPS」の導入の第一歩として、グループワークを交えた講義を通じてチーム医療に関する知識の習得を図るため。	186名
7月24日(木)	第4回 URA 研修	学術研究・産学官連携推進本部 地域連携・情報発信グループリーダーによる、コーディネーター業務に何が必要かを議論する。	44名
8月1日(金)～9月30日(火)	平成26年度公的資金の使用に係る e-Learning 研修	本学構成員の公的資金の使用に関する理解を高め、研究費等の適切な使用を徹底するため、インターネットを利用した e-Learning 研修を行う。	全構成員
8月4日(月)～8月6日(水)	大学教員準備講座2014	大学教員になる為に必要な知識と技能の獲得を目指す。	11名
8月21日(木)	第5回 URA 研修	学術研究・産学官連携推進本部 安全保障輸出管理担当者による、大学・研究機関における安全保障輸出管理について理解を深める。	13名
8月28日(木)～10月30日(木)の毎週木曜日	(自主企画研修) IT パスポート資格取得支援講習会	大学職員が身に付けておくべき基礎的な知識を幅広く学ぶのに適した IT パスポート試験の受験を通じて、日常業務等で利用する IT に関する正しい知識や業務における課題等を効率的に解決するスキルを身に付ける。	13名
9月2日(火)	平成27年度科学研究費助成事業公募説明会	科研費に関する現状と今後の動向、応募にあたっての留意点及び特に大型科研費獲得に向けてのノウハウを重点的に説明する。	201名

構成員を対象とした研修 [平成26年7月16日～10月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
9月8日(月)	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 「エネルギー・環境新技術先導プログラム」 公募説明会	「エネルギー・環境新技術先導プログラム」NEDO イノベーション推進部による公募に係る事業説明。	13名
9月8日(月) 9月11日(木) 9月12日(金)	平成26年度(中期)医療安全研修 (医療安全講演会)	良質な医療を提供する体制の確立及び個々の安全に対する意識の向上等を図るため。	1,870名
9月9日(火)～ 10日(水)	平成26年度国際業務トレーニング 英文Eメール研修 「効果的な英文Eメールの書き方」 (セミナー)	現在の英語力で、理解しやすくかつ説得力のある英文ビジネスEメールを短時間で作成するためのライティングスキル習得を目指す。	38名
9月11日(木)	第2回医療技術部放射線部門 マネジメント研修	放射線部門のスタッフが、本院の理念の下、組織の一員としての自覚と責任感を持ち、社会に貢献していくために必要な人間力を身につけることを目的とする。	22名
9月12日(金) 9月16日(火)	平成26年度 NUCT 利用講習会	授業・研修等の担当者でこれから NUCT を利用される方を対象に、NUCT を理解し積極的に利用して頂くための講習会。	10名
9月12日(金)	第6回 URA 研修	外務省 国際協力局事業管理室首席事務官による ODA 等と大学との関係やその実績等に関する説明。	25名
9月22日(月) 9月30日(火) 10月1日(水) 10月2日(木) 10月3日(金)	平成26年度個人情報と情報セキュリティ 研修会「職種別個人情報保護研修」	6月に行った全体研修を踏まえ、教員・医師、医療技術部職員、薬剤師、看護師、事務、研究医・学生と職種別に研修を行い、個人情報と情報セキュリティについて、より理解を深めることを目的とする。	503名
9月22日(月)	ネットワーク・サーバ管理者のための 情報セキュリティ講習会	Linux を利用した基本的なセキュリティ対策手順の習得。	17名
9月25日(木) 9月29日(月) 9月30日(火)	平成26年度(中期)感染対策研修 (院内感染対策講演会)	院内感染対策推進のため。	1,094名
9月29日(月)	2015 KAKENHI Guidance in English	科研費応募にあたっての留意点及びノウハウを採択経験者より英語にて行う。	22名
9月29日(月)	LabVIEW サイトライセンス説明会 & 基礎講座	システム開発ソフトウェア LabVIEW の基本的な使い方とサイトライセンス申請方法の説明。	8名
10月14日(火)	平成26年度メンタルヘルス講習会 ラインケアセミナー	医療の現場に携わる管理者を中心に、上司が部下のこころの健康づくり(メンタルヘルス)対策のために、ストレスの知識や具体的なこころの病の予防法を学んでいただくことを目的とする。	116名

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
1 本学は自動運転技術の公道実証実験ワーキンググループを設立	9.17 (水)	中日 (朝刊) 他2社
	9.18 (木)	日経 (朝刊)
2 グリーンモビリティ連携研究センター長に森川高行未来社会創造機構教授を選出	9.17 (水)	読売 中日 (朝刊)
3 脳とこころの研究センター長に祖父江 元医学系研究科教授を再任	9.17 (水)	読売
4 そこが聞きたい「戦争と科学者の責任は」：インタビュー 益川敏英本学特別教授	9.17 (水)	毎日 (朝刊)
5 本学や金沢医科大学、金沢工業大学などの研究グループは患者の心臓に合わせて個別に設計できる網目状の心臓サポートネットを開発	9.17 (水)	中日 (夕刊)
6 第49回名大カフェ“Science, and Me”「物理学」は発想の転換 ～機能性材料は未来を照らす～開催：24日 澤 博工学研究科教授が講演	9.18 (木)	読売
7 就職に強い中部の10大学特集：名古屋大学 國枝理事	9.18 (木)	中日 (朝刊)
8 増える自然災害 坪木和久地球水循環研究センター教授は「巨大台風による水害は将来起こりうる災害で、今から対策を考えなければならない」と語る	9.19 (金)	読売
9 本学は文部科学省が公表した法科大学院に2015年度に交付する補助金を算出するための5段階分類で最高ランクに分類された	9.20 (土)	日経 (朝刊) 他2社
10 教訓残す復興住宅 伊勢湾台風から55年 復興住宅を調査している堀田典裕工学研究科助教は「災害の歴史を伝え、現代の防災を考えるために貴重な資料」と語る	9.21 (日)	中日 (朝刊)
11 学生力全開 名大初V 第12回学生フォーミュラ大会で総合優勝したフォーミュラチーム「FEM」のチームリーダー小林吾一さん工学研究科大学院生は「みんなで1つの目標を目指し、総合力で勝てた」と語る	9.22 (月)	中日 (夕刊)
12 本学の航空機開発グローバルプロジェクトが文部科学省の「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」に選ばれた	9.23 (火)	日刊工業
13 内田 良教育発達科学研究科准教授は運動会の人気競技の人間ピラミットについて「他の種目に比べて深刻な事故も多く、徹底した安全対策が必要だ」と語る	9.23 (火)	読売
14 ひと彩々：炭素素材研究で女性科学者奨励賞 八木亜樹子さん理学研究科博士課程2年生	9.23 (火)	中日 (朝刊)
15 オンリーワン：「外交官」として国際交流 石田優花さん教育学部附属高等学校2年生	9.23 (火)	中日 (朝刊)
16 本学は世界最大級の学術論文データベースを持つ情報サービス会社「エルゼビア」と読売新聞社の共同調査の大学・研究機関の再生医療の影響力ランキングで94位だった	9.24 (水)	読売
17 第19回博物館特別展「絹谷幸太 創知彫刻」開催：7月24日～11月29日	9.24 (水)	朝日 (夕刊)
	10. 1 (水)	朝日 (夕刊)
18 中国を訪問中の日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が中国汪洋副首相と会談	9.25 (木)	中日 (朝刊)
19 本学が産学連携でトヨタ自動車株式会社と2020年をメドに炭素繊維の量産車作りを目指していることが取り上げられる	9.26 (金)	日経 (朝刊)
20 本学は文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」対象機関の公募に対し、タイプA (トップ型) に「21世紀、Sustainable な世界を構築するアジアのハブ大学」を申請し、採択された	9.26 (金)	中日 (夕刊) 他3社
	9.27 (土)	読売 他4社
21 運動会 ケガ防げ！ 内田 良教育発達科学研究科准教授が「頭部の強打や骨折などの重傷につながりやすいのは組み体操」と語る	9.26 (金)	日経 (夕刊)
22 のよりサロン：「科学者と芸術家」知性と感性 共有必要 野依良治本学特別教授が本学学生と議論を交わす	9.27 (土)	中日 (朝刊)
23 中部ひと模様：名古屋大学野球部主将 七原優介さん教育学部4年生	9.27 (土)	日経 (夕刊)
24 山岡耕春環境学研究科教授は27日に噴火した御嶽山について「水蒸気爆発」の可能性があると語る	9.28 (日)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
	9.29 (月)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
25 検証 名古屋の常識：濱口総長の年頭あいさつが取り上げられる	9.28 (日)	朝日 (朝刊)
26 木股文昭元本学教授は御嶽山の噴火について「まだまだ私たちは、御嶽山を十分に理解していなかった」と語る	9.28 (日)	毎日 (朝刊)
27 濱口総長が日本経済新聞社の「学長アンケート」に回答	9.29 (月)	日経 (朝刊)
28 「あいちサイエンスフェスティバル2014」開催：9月27日～11月3日	9.29 (月)	中日 (朝刊)
	10. 5 (日)	読売
29 自然科学3分野 期待高まるノーベル賞 物理学賞で赤崎 勇本学特別教授が取り上げられる	9.29 (月)	日刊工業
30 医人伝：名古屋大学医学部 治療も研究も「日本一」を 高橋義行医学系研究科准教授	9.30 (火)	中日 (朝刊)
31 山岡耕春環境学研究科教授は27日に噴火した御嶽山について「噴煙などを見ると、長期的には火山活動は終息に向かっているが、突然の噴火に気を付けてほしい」と語る	9.30 (火)	読売

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
32 旬の人時の人：「国際数学連合」アジア人初の総裁に 京都大学教授森 重文本学特別教授	9.30 (火)	日経 (朝刊)
33 本学が御嶽山山頂付近に秋にも新たに地震計の設置を準備していたと報じられる	9.30 (火)	朝日 (夕刊)
34 山岡耕春環境学研究科教授は御嶽山の火山活動について「29日以降、微動に変化が生じている。火山活動は続いており、細心の注意が必要」と語る	10. 1 (水)	毎日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
35 防災の知恵：過去の大地震＝「わがこと」 兵庫県立大学准教授木村玲欧氏元本学助教	10. 1 (水)	読売
36 博士課程教育リーディングプログラム「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム入講式：1日	10. 2 (木)	中日 (朝刊)
37 山岡耕春環境学研究科教授は現在の御嶽山の火山活動について「火山性微動は完全に終息している状態ではない」と語る	10. 2 (木)	朝日 (朝刊)
38 第10回名古屋大学ホームカミングデイ・市民公開講座「もっとよく知ろう！さまざまな“浮腫 (むくみ)”とその対策」開催：18日 本学教授が講演	10. 2 (木)	読売
39 ノーベル賞 6日から発表：医学生理学賞 竹市雅俊本学特別教授、物理学賞 赤崎 勇本学特別教授が受賞を期待される科学者と取り上げられる	10. 2 (木)	毎日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
40 ノーベル賞 6日から発表：ノーベル賞を受賞した日本の科学者として、野依良治本学特別教授、益川敏英本学特別教授、小林 誠本学特別教授、下村 脩本学特別教授が取り上げられる	10. 3 (金)	日経 (朝刊) 日刊工業
41 秋季入学式が開かれ濱口総長は「懸命に学び、人と違った角度で物事を考え、そして、名古屋で多くの友人をつくってほしい」と挨拶した	10. 4 (土)	中日 (朝刊)
42 本学が御嶽山に設置した地震計などが紹介される	10. 4 (土)	毎日 (朝刊)
43 野依良治本学特別教授、益川敏英同特別教授、小林誠同特別教授、下村脩同特別教授がこれまでのノーベル賞受賞者として紹介される	10. 4 (土)	朝日 (朝刊)
44 山岡耕春環境学研究科教授は御嶽山の地震計3台が稼働していなかったことに対し「山頂の地震計が機能していれば、もしかすると噴火の前兆がつかめたかもしれない」と話す	10. 5 (日)	読売
45 文部科学省が全国の9大学が観測・研究している火山に御嶽山を追加する検討を開始したことについて木股文昭元本学教授は「御嶽山には噴火予知の予算が計上されなくなり調査観測が極めて困難になった」と語る	10. 5 (日)	毎日 (朝刊)
46 病院の実力 81：肝臓がん 医学部附属病院の取り組みが紹介される	10. 5 (日)	読売
47 ニューヨーク・シティ・オーケストラが来日し本学などの合唱団と共演	10. 5 (日)	中日 (朝刊)
48 本学が文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」のタイプA (トップ型) に採択された内の一校として紹介される	10. 6 (月)	日経 (朝刊)
49 山岡耕春環境学教授は御嶽山の噴火以前の気象庁から意見を求める問い合わせに対し意見を述べた	10. 6 (月)	毎日 (朝刊)
50 丹羽宇一郎本学名誉教授がグローバルビジネス学院会長に就任し「経済の現場を知った学者、専門家を育てたい」と語る	10. 7 (火)	朝日 (朝刊)
51 ひと：日本流の産官学連携を トヨタ自動車株式会社代表取締役会長内山田竹志氏本学卒業生	10. 7 (火)	読売
52 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授が2014年度ノーベル物理学賞を受賞	10. 8 (水)	中日 (朝刊) 他5社
53 内田 良教育発達科学研究科准教授が運動会の組体操で行われる人間ピラミットについて「調べてみると思いがけない件数の事故が起きていることが分かった」と語る	10. 8 (水)	読売
54 濱口総長や学生が見守る中、赤崎記念研究館に赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授の2014年度ノーベル物理学賞受賞を祝う垂れ幕が設置された	10. 8 (水) 10. 9 (木)	日経 (夕刊) 朝日 (朝刊)
55 濱口総長が赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授の2014年度ノーベル物理学賞受賞に対し「製造業の中核である名古屋にふさわしい」と語る	10. 9 (木)	日経 (朝刊)
56 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授の2014年度ノーベル物理学賞受賞に対する喜びのコメントが紹介される	10. 9 (木)	読売 他4社
57 天野 浩工学研究科教授の研究室の学生が同教授について「いつも優しい」などと語る	10. 9 (木)	日経 (朝刊) 中日 (朝刊)
58 豊田講堂時計台の青色LEDと皆既日食が紹介される	10. 9 (木)	日経 (朝刊) 読売
59 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授の2014年度ノーベル物理学賞受賞に対し安倍晋三総理大臣が「日本の学術、技術開発のレベルの高さが示された」などと述べた	10. 9 (木)	朝日 (朝刊)
60 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授の2014年度ノーベル物理学賞受賞に対し関係者が祝福、解説する	10. 9 (木)	朝日 (朝刊) 他2社
61 赤崎 勇本学特別教授の助言を受けてLED製品を開発した豊田合成株式会社が紹介される	10. 9 (木)	朝日 (朝刊) 他2社

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
62 濱口総長が21世紀のノーベル賞受賞者に本学関係者が多いことについて「自由に研究させたことが財産になった」と語る	10.10 (金)	中日 (朝刊) 日経 (朝刊)
63 青輝く①:「一人荒野行く」信念結晶 赤崎 勇本学特別教授	10.10 (金)	読売
64 2014年ノーベル物理学賞を受賞した天野 浩工学研究科教授を中部国際空港で研究室の学生たちが出迎えた	10.10 (金)	毎日 (夕刊)
65 2014年ノーベル物理学賞を受賞した赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授が豊田講堂で共同記者会見を行った	10.10 (金) 10.11 (土)	朝日 (夕刊) 他3社 日経 (朝刊) 他5社
66 青輝く②:「実験の鬼」世紀の発見 天野 浩工学研究科教授	10.11 (土)	読売
67 目耳録: 出会いと交流 赤崎 勇本学特別教授との交流について	10.11 (土)	中日 (夕刊)
68 文部科学省は天野 浩工学研究科教授に文化勲章を贈る準備をすすめている	10.11 (土)	中日 (夕刊)
69 2014年ノーベル物理学賞を受賞した天野 浩工学研究科教授が「半導体材料は産学連携でまだまだ発展する」と語る	10.11 (土)	日経 (朝刊)
70 ノーベル賞 冷めぬ興奮 本やLED グッズ入荷待ち 本学や名古屋の書店で関連グッズが売り切れ	10.11 (土)	日経 (夕刊) 中日 (夕刊)
71 第17回全日本学生ライダー新人競技大会開催: 本学が出場	10.11 (土)	朝日 (朝刊)
72 青輝く③: 実用化加速 多分野へ「より明るく」高輝度開発で競争 赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授	10.12 (日)	読売
73 就職難続く「ポストク」天野 浩工学研究科教授がノーベル賞受賞につながる業績挙げた年齢が20代だったと紹介される	10.12 (日)	中日 (朝刊)
74 2014年ノーベル物理学賞を受賞した赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授について1973年にノーベル物理学賞を受賞した横浜薬科大学長江崎玲於奈氏が「われわれの生活にこれほど大きなインパクトを与えたノーベル賞はないのではないか」と語る	10.12 (日)	中日 (朝刊) 読売
75 青色LEDでノーベル物理学賞 産学連携 熱意の賜	10.13 (月)	日刊工業
76 赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授が執筆したノーベル賞に関する論文を応用物理学会で無料公開	10.13 (月)	読売
77 ザ・解説そこが知りたい: 日本の科学技術イノベーション ノーベル賞受賞も「基礎」弱体化	10.13 (月)	日刊工業
78 社説: ノーベル賞の価値 社会へのインパクトが大事だ	10.13 (月)	日刊工業
79 本学は博士課程の学生向けサテライトキャンパスをモンゴルとカンボジアに開校	10.15 (水)	朝日 (朝刊)
80 2014年ノーベル物理学賞を受賞した天野 浩工学研究科教授を愛知工業大学で特別講義を行った	10.15 (水)	中日 (朝刊) 他4社
81 2014年ノーベル物理学賞を受賞した赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授が名古屋市から市学術表彰を授与されることになった	10.15 (水)	中日 (朝刊) 他4社
82 青色LED 照明や信号機…様々な活用 赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授	10.15 (水)	読売
83 本学や岐阜大学、金沢工業大学を中心に11の研究機関が炭素繊維の研究で連携する共同事業体「コンポジットコンソーシアム」を設立する	10.15 (水)	読売
84 本学の野依記念物質科学研究館から赤崎記念研究館まで「ノーベルロード」が作られる計画が浮上していると報じられる	10.15 (水)	中日 (夕刊)

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

7月24日(木)～11月29日(土)

場 所：博物館前庭、テラス、
特別展示会場

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日

入 場 料：無料

第19回博物館特別展「絹谷幸太 創知彫刻」

[関連特別講演会]

場 所：博物館 3階講義室

時 間：14:00～15:30

講演題目：「祖父為三郎の芸術への想いー古川美術館の收藏品からー」
(11/19)

講 演 者：古川為之氏 (古川美術館館長)

講演題目：「大学博物館の昔と今」(11/26)

講 演 者：ジャイルズ・クラーク (本学参与)

対 象：一般

参 加 費：無料



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

10月8日(水)～1月30日(金)

場 所：附属図書館医学部分館
2階入口ホール

時 間：9:00～20:00 (平日)
(1/5～1/7は9:00～17:00)、
13:00～17:00 (土曜日)

休 館 日：日・祝日、12/29～1/3

入 場 料：無料

附属図書館医学部分館第8回ミニ展示会

「医心 絵心ー医師たちの画カー」

内 容：愛知医科大学の解剖学者 奈良坂源一郎の博物画、県立愛知医科大学の皮膚科学者 太田正雄 (木下奎太郎) の絵画など、解剖図だけでなく、人物、静物、動植物などの多様なモチーフに発揮された先輩医師たちの素晴らしい画力を展示公開する



[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505

11月5日(水)～1月30日(金)

場 所：博物館野外観察園
セミナーハウス 2階

時 間：10:00～16:00

休 館 日：土・日・祝日、12/27～1/4

入 場 料：無料

博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示

「スノーボールアースからカンブリア爆発へ」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

11月17日(月)、18日(火)

場 所：ベンチャー・ビジネス・
ラボラトリー 3階
ベンチャーホール

時 間：13:00～17:40 (11/17)、
9:00～12:55 (11/18)

参 加 費：無料 (懇親会は3,000円)

第18回 VBL シンポジウム

テ ー マ：「無機・有機ナノ構造の物性とデバイス」

内 容：無機材料および有機材料の基礎物性からデバイス応用までを網羅し、材料設計、合成、プロセス、基礎物性から応用に至るまで最新の研究成果を講演

[問い合わせ先]

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
事務室 052-789-5447

11月18日(火)

場 所：文系総合館 7階オープンホール

時 間：15:30～17:30

対 象：一般

参 加 費：無料

国際言語文化研究科「離婚と結婚」公開講演会

講演題目：「結婚の絆に関する法学者と宗教者の対立：
聖書物語を読み直す哲学の考察」

講 演 者：ホアン・マシア氏 (元上智大学教授)



[問い合わせ先]

国際言語文化研究科
教授 鈴木繁夫 ssuzuki@nagoya-u.jp

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月20日(木)

場 所: 理学南館 1 階坂田・平田ホール
時 間: 17:00~19:00
参 加 費: 無料

仁科記念講演会

講演題目: 「冷却原子を用いた量子シミュレーション」
講 演 者: 高橋義朗氏 (京都大学教授)
講演題目: 「クォーク物理学の展開」
講 演 者: 三田一郎 (本学名誉教授)



[問い合わせ先]

理学研究科
教授 野尻伸一 052-789-4537

11月22日(土)

場 所: 国際開発研究科棟 8 階
多目的オーデトリウム
時 間: 10:00~18:00
参 加 費: 無料 (懇親会は4,500円)

国際シンポジウム

「包摂・排除の歴史と現在—東アジア移民、政策、国境—」

[問い合わせ先]

国際開発研究科 052-789-4396

11月22日(土)

場 所: 環境総合館 1 階レクチャーホール
時 間: 13:20~16:30
定 員: 100名
対 象: 一般
参 加 費: 無料

建築学教室第16回まちとすまいの集い

「かしくく住まう—つながり、まもり、いかす—」

講演題目: 「ソトマをわかちあう家に住まう」
講 演 者: 脇坂圭一 (施設・環境計画推進室准教授)
講演題目: 「地域産木材で建てた家に住まう」
講 演 者: 古川忠稔 (環境学研究科准教授)
講演題目: 「自然の恩恵に与って快活に住まう」
講 演 者: 田中英紀 (施設・環境計画推進室特任教授)



[問い合わせ先]

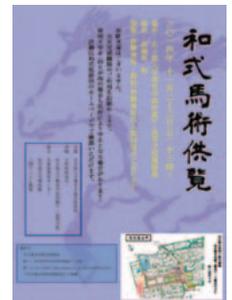
建築学教室まちとすまいの集い事務局
052-789-5233

11月23日(日)

場 所: 教育学部附属中・高等学校運動場
時 間: 13:00~
参 加 費: 無料

和式馬術供覧

内 容: 流鏝馬観覧、体験乗馬 (人数制限あり)



[問い合わせ先]

和式馬術部
washikibazyutubu@gmail.com

11月25日(火)

場 所: 豊田講堂ホール、他
時 間: 13:30~16:30 (公開レッスン)*、
18:00~19:30 (コンサート)
*前半の公開レッスンは豊田講堂内の
4カ所に分かれて実施されます。予約
は必要なく自由にご覧になれます。
対 象: 一般
参 加 費: 無料

シュトイデカルテットレクチャーコンサート

—シュトイデが自ら曲の解説を加えるコンサート—

演奏曲目: 「弦楽四重奏曲第11番セリオソ」 ベートーヴェン、
「弦楽四重奏曲」 ラヴェル
出 演: フォルクハルト・シュトイデ氏 (第1ヴァイオリン)、
ホルガー・グロー氏 (第2ヴァイオリン)、
エルマー・ランドラー氏 (ヴィオラ)、
ヴォルフガング・ヘルテル氏 (チェロ)



[問い合わせ先]

総務部総務課 052-789-5820

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月26日(水)

場 所：理学部南館 1階
坂田・平田ホール（講演会）、
グリーンサロン東山
レストラン花の木（夕食会）
時 間：16:00～17:30（講演会）、
18:00～20:00（夕食会）
定 員：200名（講演会）、
40名（夕食会）
対 象：一般（夕食会は同窓会会員、
学士会会員のみ）
参 加 費：無料（夕食会は5,000円）

全学同窓会講演会・夕食会

講演題目：「グローバル化と日本の将来」
講演者：丹羽宇一郎氏（全学同窓会副会長・関東支部長）



[問い合わせ先]

全学同窓会事務局 052-783-1920

11月26日(水)

場 所：ES 総合館 1階 ES ホール
時 間：13:00～17:00
対 象：一般
参 加 費：無料

第2回大学文書資料室シンポジウム

「今、なぜ大学史かーその意義と展望ー」

講演題目：「大学沿革史編纂の効用を考えるー特色の確認、
アイデンティティの形成、そして自校教育ー」
講演者：寺崎昌男氏（立教学院本部調査役）



[問い合わせ先]

大学文書資料室 052-789-2046

11月27日(木)

場 所：減災館 1階減災ホール
時 間：18:00～19:30
定 員：80名
対 象：一般
参 加 費：無料

第105回防災アカデミー

講演者：諸戸 靖氏（輪中の郷館長）

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

**11月29日(土)、12月13日(土)、
1月24日(土)**

場 所：理農館 3階335号室
時 間：10:00～15:00

ビジネス人材育成センター 平成26年度後期 B人セミナー

テ ー マ：「Communications Styles – helping you to create good and lasting impressions –」、「国内／海外の再生医療業界について」（11/29）
「博士の就活スタート・リスタートー社会からの評価と自己評価・私らしい未来を獲得するためにー」、「プレゼンテーションスキル研修ー研究発表を、誰にでもわかりやすくプレゼンテーションー」（12/13）

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部
ビジネス人材育成センター 052-747-6490

11月30日(日)、12月6日(土)

場 所：IB 電子情報館棟 2階大講義室
時 間：13:00～17:15
定 員：300名
対 象：小学校・中学校・高等学校・特別
支援学校の教職員、発達障害の支
援に関わる専門家
参 加 費：無料

平成26年度発達障害に関わる専門家のための講演会

「発達障害のある生徒への理解と支援」

講演題目：「発達障害の理解ーどこまでが発達障害なのか？ー」（11/30）
講演者：野呂健二（発達心理精神科学教育研究センター特任准教授）
講演題目：「特別支援教育を推進するために」（11/30）
講演者：酒井貴庸（教育発達科学研究科特任助教）
講演題目：「積極的行動支援（PBS）による発達障害生徒の支援」（12/6）
講演者：大久保賢一氏（畿央大学准教授）
講演題目：「発達障害生徒の感情マネジメント」（12/6）
講演者：小倉正義氏（鳴門教育大学准教授）
内 容：学校現場の教職員など専門家を対象として発達障害の支援に
関する実践的知見を紹介



[問い合わせ先]

教育発達科学研究科
特任助教 酒井貴庸
hattatsushien@educa.nagoya-u.ac.jp

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月30日(日)

場 所：文系総合館7階
カンファレンスホール
時 間：13:30~17:00 (予定)

国際言語文化研究科シンポジウム
「デジタル・ストーリーテリングの可能性」

講演題目：「世界におけるデジタル・ストーリーテリングの展開」
講 演 者：土屋祐子氏 (広島経済大学准教授)
講演題目：「ウェールズにおけるデジタル・ストーリーテリング
一人びとが語ることの意味 (仮題)」
講 演 者：カレン・ルイス氏 (サウス・ウェールズ大学ディレクター)
講演題目：「対話的、協働的デジタル・ストーリーテリングモデルの提案」
講 演 者：小川明子 (国際言語文化研究科准教授)
講演題目：「福祉領域にデジタル・ストーリーテリングはいかに関われるか (仮題)」
講 演 者：舟木紳介氏 (福井県立大学講師)
講演題目：「コメント：マス・メディアと市民メディアの現状とストーリーテリングの
位置 (仮題)」
講 演 者：下村健一氏 (慶應義塾大学特別招へい教授)

[問い合わせ先]
国際言語文化研究科
准教授 小川明子 052-789-4827

12月6日(土)

場 所：豊田講堂
時 間：13:00~18:00
対 象：一般
参 加 費：無料

名古屋大学レクチャー2014公開講演会
「人類生存のための科学と精神
—感染症への挑戦と基本的人権のために—」

講演題目：「病原体としてのウイルス、先端医療の道具としてのウイルス、
感染症研究の国際連携」
講 演 者：永井美之氏 (理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク
推進センター長)
講演題目：「近代人の自立—基本的人権のために」
講 演 者：水田 洋 (本学名誉教授)
内 容：講演、ピアノ演奏会、他

[問い合わせ先]
研究協力部研究支援課
高等研究院事務局 052-788-6153



12月6日(土)

場 所：医学部附属病院中央診療棟
3階講堂
時 間：13:30~16:15
定 員：200名
対 象：一般
参 加 費：無料

平成26年度名古屋大学鶴舞公開講座
「いつまでも頭スッキリ！暮らすためには」

講演題目：「こころが萎えても折れないために」
講 演 者：入谷修司 (医学系研究科寄附講座教授)
講演題目：「認知症ケアの新しい流れ」
講 演 者：鈴木裕介 (医学系研究科寄附講座准教授)
講演題目：「1日の始まりはどこから？—明日のための今日の睡眠—」
講 演 者：大竹宏直 (医学系研究科寄附講座准教授)

[問い合わせ先]
医学部・医学系研究科総務課 052-744-2040



12月6日(土)

場 所：博物館野外観察園
時 間：12:30~16:30
定 員：20名
対 象：小学5年生以上、中学生
参 加 費：無料

日本学術振興会連携事業
ひらめき☆ときめきサイエンス
～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI
「石器を使って縄文クッキーを作ろう」

内 容：遺跡から出土した縄文クッキーの分析結果を参考にして、
縄文人と同じように石器を使ってクッキーを料理する

[問い合わせ先]
博物館事務局 052-789-5767



12月7日(日)

場 所：減災館1階減災ホール、
ギャラリー
時 間：13:00~17:00
定 員：250名
参 加 費：無料

南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトシンポジウム
「昭和東南海地震から70年—次の地震への備えは—」

講演題目：「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトの現状と展望」
講 演 者：金田義行 (減災連携研究センター特任教授)
講演題目：「地震・津波発生予測研究の現状と課題」
講 演 者：古村孝志氏 (東京大学教授)
講演題目：「地域対応力向上への取り組み」
講 演 者：福和伸夫 (減災連携研究センター教授)
講演題目：「減災に向けた人文社会学系研究のあり方」
講 演 者：田中 淳氏 (東京大学教授)

[問い合わせ先]
減災連携研究センター 052-789-3468

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

12月12日(金)

場 所：日本経済新聞社名古屋支社
3階会議室（名古屋市中区）

時 間：18:30～20:00

定 員：100名

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

経済学研究科附属国際経済政策研究センター
052-789-4945

国際経済政策研究センター・キタン会 第20回名古屋ビジネスセミナー

講演題目：「おまけしないニッポンクールジャパン機構の事業戦略」

講 演 者：太田伸之氏（クールジャパン機構代表取締役社長）



12月13日(土)～1月31日(土)

場 所：博物館 2階展示室

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日、12/28～1/5

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

第29回博物館企画展「野外観察園のボタニカルアート」

[ボタニカルアートの技法-花の描き方] (12/17)

場 所：博物館 2階展示室

時 間：13:30～15:00

参 加 費：無料

講 師：東海林富子氏

(博物館友の会ボタニカルアートサークル講師)

内 容：講師が実際に絵を描きながら技法について解説する



12月20日(土)、1月24日(土)

場 所：博物館 2階展示室

時 間：14:00～15:00

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

博物館コンサート NUMCo

「folklore クリスマスコンサートーインカからの贈り物」(12/20)

演奏曲目：「コンドルは飛んでいく」、「花祭り」、他

出 演：ティエラブランカ

内 容：ケーナ、チャランゴなどの楽器解説・民族楽器体験コーナーも用意

「フラメンココンサート」(1/24)

演奏曲目：「セビジャーナス・ブレリア」、他

出 演：Jorge Millaqueo 氏 (Cante (唄))、

木村彰人氏 (Toque (ギター))、長谷川智則氏 (サクソ)、

稲吉直子氏・内田好美氏・田中あや氏・西川正恵氏 (Baile (踊り))

12月23日(火)

場 所：博物館 2階実験室、展示室

時 間：13:00～16:00

定 員：24名

対 象：小学5年生以上、一般

参 加 費：50円 (保険料)

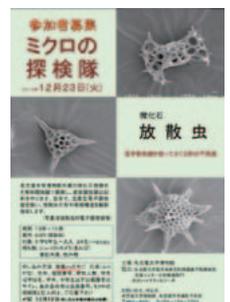
[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

ミクロの探検隊®

「微化石 放散虫-電子顕微鏡を使ってさぐる 形の不思議」

内 容：博物館所蔵の微化石放散虫を実体顕微鏡で観察し、走査顕微鏡の試料を作った後、自分で走査型電子顕微鏡を使い、放散虫の形や微細構造を観察撮影する



名大トピックス No.258 平成26年11月17日発行

編集・発行/名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

表紙

赤崎記念研究館

(平成26年10月18日)



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

151 古川図書館の完成 — 念願だった東山の中央図書館 —

今からちょうど50年前の1964(昭和39)年11月、念願であった東山キャンパスに、名大の中央図書館として古川図書館(現在の古川記念館)が完成しました。

1939年に創立された名古屋帝国大学は、当初より本格的な図書館を擁する東山キャンパス計画を構想していました。田中広太郎愛知県知事は、名帝大に図書館を建設寄附すると約束し、実際に名古屋商工会議所がその建設費を集めました。しかしこれは、戦時中の物不足と戦後の激しいインフレーションのため実現しませんでした。

その後しばらくは、教室や研究室の整備に手一杯で、東山地区に中央図書館を建設する見通しが立たない状況が続きました。ようやく本格的に検討されるようになったのは、東山地区への学部等の集結が進みはじめた1950年代後半頃からです。それでも、国費では不可能であり、1962年には愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所及び名大の代表からなる名古屋大学整備後援会が発足、その建設費を集め

ることになりました。

そうしたなか、杉戸 清名古屋市長の仲介で、千種区在住の古川為三郎(日本ヘラルド映画会長)・志ま夫妻からの寄附により、東山に附属図書館が建設されることになったのです。1963年12月に工事が開始され、翌64年11月に竣工、同月30日に内外の関係者を迎えて盛大な落成式を行い、12月14日に開館の運びとなりました。

新図書館は総面積4,033m²の3階建てで、1階は館長室、事務室、複写室、喫茶室等、2階は正面玄関を入ると出納台と目録コーナー、その右手には216の座席を持つ吹き抜けの大閲覧室、その北側には約4,000冊の開架図書が配置されました。3階は参考図書室、雑誌室、新聞コーナー、研究個室、演習室、視聴覚室等でした。

その後、古川図書館は利用者数を年々増加させていき、現在の中央図書館が1981年に完成するまでの約16年半の間、中央図書館としての機能を果たしたのです。



1	2	3
4	5	

1 古川図書館が建設される前の中央図書館(名城地区、1962年12月撮影)。名帝大創立当初は鶴舞にあったが、空襲で焼失、一時は鶴舞の医学部分室に置かれたが、1948年10月に名城の旧陸軍兵舎へ移った。

- 2 落成式当日の古川図書館。谷口吉郎氏によって設計され、1階と2階の両方へのエントランスの設置、角度によっては2階にも3階にも見える形状など、斜面の敷地を活かした工夫がなされている。また、外壁面のコンクリート打ち放し仕上げなど、豊田講堂と共通する近代モダニズム建築の意匠も見られる。
- 3 落成式後の祝賀会で、万歳の音頭をとる篠原卯吉総長(右)と建設寄附者の古川為三郎氏(左)。
- 4 古川図書館の大閲覧室(1970年頃)。現在は、吹き抜けをそのままに、博物館の常設展示室になっている。
- 5 現在の古川記念館。博物館と年代測定総合研究センターによって利用されている。